

会 議 録

令和元年10月8日作成

会議名	第3回木更津市民会館整備検討委員会		
開催日	令和元年9月20日(金)	場 所	駅前庁舎8階 会議室1
時 間	午後2時00分～午後4時30分		
出席者	委員：倉田直道委員、古橋祐委員、伊藤裕夫委員、松井憲太郎委員 宮崎恵子委員、地曳文利委員、渡部史朗委員、岩埜伸二委員 事務局：総務部 伊藤次長 総務課) 曾田課長、安田副主幹、河名主任主事 管財課) 勝畑参事兼課長、平本主幹、加藤主査 (株)シアターワークショップ 伊藤代表取締役、佐藤氏、古川氏、伊藤氏 【木更津市中規模ホール整備基本計画策定業務受託者】		
議 題	1 市民ワークショップ結果について 2 第2回委員会議事内容の確認について 3 事例紹介 4 施設機能について		
公開・非公開の別	議題1～4 公開		
傍聴者数	1人		
配付資料	○会議次第 ○資料1 市民ワークショップ結果 ○資料2 第2回委員会議事内容の確認 ○資料3 事例紹介 ○資料4 施設機能について		
会議概要	別紙のとおり		

○司会

本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日は、前回委員会の中で、施設の役割やつながりなどについて、もう少し議論が必要であるのご意見を承りましたので、当初の予定にはございませんでしたが、第3回委員会として開催させていただくところでございます。

では、初めに、配布資料の確認をお願いいたします。

配布資料につきましては、委員会の次第の裏面に記載がございます。

【配布資料確認】

なお、本日の会議は公開で行います。

会議の傍聴希望される方がおりますので、ここで傍聴人の方に入ってください。

【傍聴人入場】

ただ今より第3回木更津市民会館整備検討委員会を開催させていただきます。

まず始めに、会議の定足数についてご報告させていただきます。

附属機関設置条例第六条第2項の規定によりまして、会議は委員の半数以上の出席がなければ開くことができないとなっております。本日、石村委員、土居委員の2名が欠席されておりますが、全10名中8名の委員の皆様に出席をいただいておりますので、委員会は成立することを報告させていただきます。

なお、本日の委員会につきましては、会議録作成のため会議内容を録音させていただきますのであらかじめご了承くださいませようお願いします。

また、発言の際は、お手元のマイクのボタンを押し、発言後は、もう一度、マイクのボタンをオフにさせていただきますようお願いいたします。

それでは初めに倉田委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。

倉田委員長お願いいたします。

○倉田委員長

皆さんこんにちは。

前回の会議で、どのように施設を利用していかなどの点を、もう少し皆様に議論することが必要ではないかということになり、本日、改めて各施設の役割などについて議論していただきたいと思いますので、是非、よろしくをお願いいたします。

○司会

倉田委員長ありがとうございました。

それでは、早速、議事に入りたいと思います。

附属機関設置条例第6条第1項に、委員長が会議の議長となるとありますので、ここからの議事進行につきましては、倉田委員長にお願いしたいと思います。

○倉田委員長

それでは議事に入りたいと思いますが、発言される場合には挙手をお願いします。

本日の議題は4件となっております。

まず、議題1.「市民ワークショップ結果について」事務局より説明願います。

○事務局

はい。この後の議題の進め方についてですが、議題1.「市民ワークショップ結果について」及び議題2.「第2回委員会議事内容の確認について」を、シアターワークショップよりご説明させていただきます。

その後、議題3.「事例紹介」として前回委員会で松井委員よりキラリふじみ館の施設説明についてご提案いただいておりますので、映像等でご説明をお願いしたいと存じます。その後、一括で質疑応答を行わせていただきます。そして、最後に、議題4.「施設機能について」をシアターワークショップよりご説明させていただき、その質疑応答を行うという形で進行させていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。議題1及び以降の議題につきましては、シアターワークショップよりご説明させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

○シアターワークショップ

【資料に基づき議題1.「市民ワークショップ結果について」及び議題2.「第2回委員会議事内容の確認について」を説明】

○倉田委員長

ありがとうございました。

続きまして、議題3.「事例紹介」につきまして、松井委員よろしく願いいたします。

○松井委員

【資料に基づき議題3.「事例紹介」として富士見市民文化会館キラリふじみの施設と事業の関係性について説明】

○倉田委員長

松井委員ありがとうございました。

今ご紹介いただいた事例についても、いろいろな課題も含めて、後ほど議論していきたいと思えます。

では、次の資料4-1「木更津市の年間資源、プログラム」資料4-2「木更津市における中規模ホールの位置付け」について、関連があると思いますので、一括でご説明をお願いいたします。

○シアターワークショップ

【資料に基づき「木更津市の年間資源、プログラム」、「木更津市における中規模ホールの位置付け」について説明】

○倉田委員長

ご意見等ございましたらよろしく願いいたします。

○宮崎委員

富士見市には、公民館はどのくらいありますか。

○松井委員

正確な数はわかりませんが、公民館として主だったものは四つあるようです。

その後、徐々にコミュニティーセンターなどができました。

しかしながら、新しくできたコミュニティーセンターは、市民の文化活動という点では、スペースがありません。

○宮崎委員

木更津でも、秋に公民館文化祭があって、その公民館を使っている人たちが主催で、多くの行事をやっています。

キラリふじみの行事と同じようなことを公民館で行っているのかなと思いました。

○松井委員

富士見市でも、確かに各公民館でいろいろな活動しており、その中身は、確かに文化会館で新しくやったイベントとかぶっているのかもしれませんが。

先ほど、あまり時間もなかったのですが、詳しく説明しなかったのですが、コミュニティーが分離している街の中で、文化会館がやる役目というのは、いろいろな地域の人たちが一堂に会して、一つの町として、自分たちの文化的アイデンティティーや、地域の文化的アイデンティティーを、もう1回再確認したり、再創造したりするための場所であるというような位置付けで、「サーカスバザール」や「大地の収穫祭」などで、様々な人たちが全員集合し、新しい富士見市の秋祭りとして展開できたらいいなということでやっています。

○宮崎委員

つまり、いろいろな地域の人の交流の場を作るという意味合いなのですね。

○古橋委員

実は私は、30年前に富士見市の隣に住んでいました。

この辺りは、池袋の芸術劇場に30分で行けます。

富士見市に文化会館ができたことは当然知っており、そこに劇団四季が来るという話もありましたが、そこに有名人などがくることなどは、期待されてないと思います。

先ほど駅から20分との話もありましたが、池袋に行った方が便利です。

しかしながら、変に都会化されていないため、富士見市にはまだ地域の人たちのポテンシャルが

残っているように思います。

私は隣の新座市というところなのですが、ここはもう、それがないです。

流入した人たちの方が多く、実際、人参の産地として有名なのですが、富士見市の方がまだ個性がある。しかしながら、隣から見てあそこに一流のアーティストを見に行こうっていうふうには考えられません。

先ほどいろいろとご説明があったのですが、実はキラリふじみ館が出来た時の経緯もあるので、設計した人は、はっきり言って正面を作らないというコンセプトだったというふうに聞いています。

ただ市役所があって、体育館、図書館があり、一連の公共施設の中で公園を含めた計画として、内側に開くというコンセプトだったようです。

現在、ららぽーとが隣にできているのですが、その向こう側はごみ焼却場ですし、あそこいららぽーとができるなんて本当に30年前には誰も考えませんでした。

はっきり言って10年前も考えなかったです。突如できた大規模商業施設という感じなので、それは設計者をかばうわけでも何でもありませんが、あれはもともと、いわゆる、芸術の殿堂という形で正面玄関があり、登って、そこにゲートがあるというふうには作りたくなかったというようなことを聞いています。

町の中に何となく文化施設が含まれているというコンセプトだったので、ただそれが生きていないと言われてしまうと、建築家としては反省するところではあるのですが、状況も変わり、求められるものも変わってしまいました。

しかしながら、そういう意味で言うと木更津の方が、この富士見市より個性を出しやすいというふうに思います。

富士見野はやはり、外から見たらニュータウンということで、超高層がダウンとか建っていて、都会的なイメージがありますが、そこに住んでいる方は池袋に期待しているみたいなどころがあります。それに対してここ木更津は随分この間からいろいろ外からの流入の話もありましたけれども、まだ市としてのポテンシャルという形をこれから作っていきけるような状況にあるのではないかと思います。ただ、同じようにアウトレットショップができたということであると、少しこの今の松井委員のご苦勞を伺って、木更津市もまたより一層大変になるのではないかと思いますところでは。

ちょっと感想みたいになってしまいましたが。

○伊藤委員

私は、たまたま、ふじみ野市の文化振興審議会の会長を勤めていますが、その辺を含めて、木更津市と比較してみたいと思います。

先ほど少し公民館の話も出ましたが、富士見市の北側のふじみ野市というのも、二つの市と町が合併してできたところでは。

市内には二つ大きな公民館があって、合併したことによって、最初は一つに統合する案がありましたが、それがなかなか地域の人達の声が強くて、統合できずに、二つ建て替えていくというような状況になりました。しかし、確かに公民館としては機能しています。

他方で、木更津はどうかわかりませんが、多分富士見市もふじみ野市も、公民館の利用者は、どちらかという旧住民だと思います。

新住民はあまり公民館を利用していないのではないかと。

従って、先ほど松井さんが旧村の人たちの交流ということもあったと思いますが、

ふじみ野市でも、二つの市、町の人たちを交流させたいっていうのが、文化振興審議会の意向なのですが、それぞれの場所に、文化施設を造ると交流できないのではないかとこのことを非常に心配しています。もう一つは地域だけじゃなくて、新旧住民の交流、特に若い人たち、実際に公民館活動に小中学生は親に連れられて参加しますが、高校生以降になると、ほとんど参加しなくなって、特に20代になると来ない。

そういう意味で、人達との接点を作っていくような拠点が、この辺りは必要じゃないかなと思っ

ていたわけです。

先ほど、古橋委員が言われたように、この沿線は池袋に近いこともあって、メインホールというのが、結構大変じゃないかと思えます。

僕自身もキラリふじみには何回か行ってありますが、メインじゃなくて多目的ホールに興味があります。

キラリふじみらしいというような事業というものはやはり多目的ホールが中心に行われていて、メインホールがどちらかというと非常に影が薄ように思います。

木更津の場合はちょっとわかりませんが、君津市にホールがある中で、メインホールが本当に必要なかどうかということも含め、もう少しこの辺のメインホールの使い方について、特に今ちょっとキラリふじみの方でメインホールの紹介がちょっと少なかったのも、生かしていくためにどういう苦労されているのかということのを松井委員にお伺いしたいと思ったところです。

○松井委員

メインホールの方は、クラシック音楽とか、先ほどの市民の文化活動でいうと、合唱をやっている人達の利用が多かったということがあり、基本的には楽器の演奏用で、非常に響きがいいという設計になっています。

しかしながら、音響条件を変化させることが、ちょっと設計から抜け落ちている部分があり、人の声でお芝居をやると、声がよく聞こえるというような設備については当初設計されていたのですが、幕を上げ下げしたりして、残響音を調整するとすると、反響板はあるのですが、響きすぎて声が不明瞭になってしまいます。

しかし、お金がなくて、なかなか改善できない状況です。

うちだけの問題ではなく、今、演劇をホールでやるとものすごく声が響きすぎて、逆に良く聞こえないというような状況が日本全国の公共ホールでたくさんあると思います。

そのようなこともあり、僕が何をしたかということ、僕が昔仕事をしてきたような世田谷パブリックシアターのように、もちろん音楽もやるのですが、もっとダイナミックな活動が行われる場所にしようということで、就任翌年に、サーカスのパフォーマンスを呼んだり、多田淳之介君の前衛的な演劇を舞台の上でやって、客席を背景に講演をしたりとか、メインホールに劇場としての匂いとか、手垢をつけるということをやりました。確かに伊藤委員の指摘される通りなのですが、今は設計された機能とは少し違った形の利用で、目指している方向性にふさわしいものに再活用していく、応用してくというようなやり方をしています。

○伊藤委員

メインホールのような文化施設を作るとすると、良い悪いは別として、やはり象徴的なものが必要だという考え方も多分あると思います。

地域で合唱、吹奏楽をやっている人たちや、中学生とか高校生達のそういう発表会に必要だということで、メインホールの使い方を考えいくと、人口によっては、規模が1000席になったり800席になったり700席になったりすると思いますが、実際には年間使用率が結構低くなります。

富士見市、ふじみ野市の関係でいうと、富士見市の人たちは今までホールらしいものがなかったこともあって、ふじみ野、或いは川越の施設を利用したりしているという状況があるわけです。

そういう意味でいくと、この会議で最初にいいなと思ったのが、広域圏で、ホールを共用しているという形で、大ホールについては作らないという考え方が非常に賢明であったなと思います。

メインホールも他のホールとの役割分担というものもしっかり決めていかないと、木更津だけの使用というのでは、なかなか成り立っていかないのではないかという気がします。

それから2番目の問題として、富士見市と木更津市を比較するとき難しいなと思うのは、先ほど松井委員からも話が出ましたが、人口は同じくらいですが、面積が6倍だということです。

言ってみれば、木更津市の場合、どんな魅力的なホールを造り、運営でいろいろ新しい工夫をしても、木更津市民全体のものには絶対ならないだろうと思います。

従って、このホールがカバーできるエリアというのは、どこまでなのだろうか考えた時、先ほどの資料に書かれた図で木更津市内と書いてある部分が、全市内、行政上の市じゃなくて、多分旧木更津市の市街地を想定しているのかなと思います。

それでいいのではないかと私は思うのですが、ただ、やはりアウトリーチといいますか、様々な形

で出かけていくような機能を強化しておく必要があると思います。

特に合併して大きくなった自治体においては、ホールというものが浮いてしまうという気がすごくしています。

富士見市やふじみ野市というのは、まだまだそういう意味で端から端までの距離が短いので、うまく広報すれば、全市民に開かれた施設になってくるのですが、木更津の場合には全市民に開かれたホールというのは不可能に近いだろうと感じます。

その中でやろうとしたら、アウトリーチのプログラムをいかにうまく作り上げる必要があります、例えば中山間地域と言いますか、房総半島の奥の方の地域の方の学校などの講堂で、活動ができるようなアウトリーチ的なものをどういう風に作っていくのか、このようなことは、おそらく運営の問題でも絡んでくるのかなという気がしました。

○岩埜委員

木更津市には、現在15の公民館がございます。

各公民館で相当大きな市民力を持っており、それぞれで文化祭を行っております。

あと金田地区も指定管理ですが、その中に社会教育の職員がいますので、それも絡めて文化祭を行っています。

それと合わせて、8ページになりますが、秋に生涯学習フェスティバルというものがあります。

これは、今の中ホールで講演、小中学生の作文の発表などを行っていて、体育館では社会教育として、いろいろなイベントを行っております。

それが一番大きな生涯学習行事ですが、それを今回検討している中規模ホールの中で行い、また公民館で行事をやっている方が披露するところがあまりないので、それを多目的ホールで披露しながら、さらに大きなホールを目指していくという形になればと思います。

また、市の方で行っている鑑賞コンサートなどを多目的ホールでやっていけたらと考えます。

木更津市では、公民館での社会教育に力を入れており、市民力もありますので、そこを強みとして、ホールというものを活用できればと思っております。

○倉田委員長

ありがとうございます。

次の議論に移る前に、私も少しこういった公共施設の計画に関わってきた経験でお話させていただくと、従来の公民館の機能というものと、文化センターあるいは市民会館の機能というものは、かなり役割分担がされてきたのだらうと思うのですが、最近の公共施設を見ていると境界がどんどん無くなってきているというか、あまり明確になってきていないという状況があるように思います。

特に市民会館については、より交流的な機能が求められるようになればなるほど、その辺の境界がどんどん無くなってくるというような気がしています。

ただ、あくまでも、先ほどもお話があったように、市民会館、公民館は、地域との繋がりというのが強く、その上に成り立っているってことがありますので、そういう意味では、結果的に公民館が無くなるという話ではないと思いますが、一方で、私が実際計画した施設の中にも、もう市民会館の中に、ホールと中央公民館的な機能も一緒にするとか、それまで役割分担していた機能を複合化するような傾向があります。

実際のニーズや、その使われ方を考えていくと、おそらくそういう方向に行かざるを得ないのではないかというふうに思っています。

特に今回、市民にとっての居場所という議論、或いは交流拠点というお話が出てくると、当然、そういうところに向かっていくだろうというふうに思っております。

ですから、そういう意味で、ホールの作り方も変わってきているなというふうに感じております。例えば大きなホールがいるかどうかという話ですが、私も実は上越市の市民会館の建て替えの検討委員会の委員長やっていた時に、やはりそんな大きいものを作ってもしょうがないねというのが議論となりました。

今回もおそらく、これから造る市民会館では、そういう議論も必要になると思います。

その時に、平土間にできるようなメインホールを作るとすることも考えてはと思います。

この後ちょっとお話があるかもしれませんが、茅野市民会館や私が関わった上越市も 800 人ぐらい収容できるホールですが、平土間にすることができます。

今は、可動であっても、固定式と変わらないような、かなり性能のいい客席ができてきています。市民会館と言っても、やはりそこに期待されている役割というのは変わってきていると思いますので、それを前提に、議論する必要があるのではないかなというふうに思っています。

それから、先ほど富士見市の文化会館の話が出ましたが、私が拝見する限りちょっと古いタイプの設計だという感じはしています。

それはどういうことかと言うと、かなり特定の機能の教室を並べて、そこを、廊下でつなぐとかという施設づくりをしており、そういう意味では、これからの新しい使い方に対応できるかということであると、なかなか難しいかなと思います。

交流スペースというのは、あえてそういう名前をつけている訳ですが、今の公共施設の考え方という、必ずしも、特定の場所を取って交流空間としているのではなく、ある意味で、館全体、施設全体が交流空間になっているというコンセプトを持ったケースが多いように思います。

これはあくまでも設計の話なのですが、やはり施設もこれから変わっていくというふうに考えて議論をした方がいいのではないかなというふうに感じたところです。

○岩埜委員

委員長から、いわゆる、公民館的な機能もという話がありましたが、木更津市には基本的に 1 中学校区に 1 公民館があります。

第一中学校区には中央公民館があり、そこは各公民館の中心なのですが、木更津市の再配置計画の中では、第一中学校区との複合化を検討するというようになっております。

なので、中規模ホールのところには、非常に難しいのではないかなというふうに思います。

○倉田委員長

私が申し上げたのは、中央公民館という名前をつけて、それを一緒にするというだけでは必ずしもなくて、市民会館の役割の中に公民館的な役割が求められるようになってきているということです。

公民館自体が昔に比べていろんな使われ方してきていますので、やはり新しい時代に求められている施設作りをしなければなりません。その中には、ある意味公民館的な機能というのも含まれてくるだろうと思います。

当然その求められているものの先にはそういう施設がイメージできるのではないかなということで、他でもそういう議論をしている、そういうところに行き着いているということがあったので、少し事例として申し上げたところです。

この後また具体的な議論の中でもいろいろお話をいただけたと思いますので、先に進めさせていただければと思います。

次に 4-3 の施設運営の基本方針、4-4 の基本的な役割と導入機能、さらに中規模ホールの施設構成について、関連があるのでご説明いただければと思います。

よろしくをお願いします。

○シアターワークショップ

【資料に基づき「施設運営の基本方針」、「基本的な役割と導入機能」「中規模ホールの施設構成」について説明】

○倉田委員長

ありがとうございます。

それではただいまのご説明につきまして、ご質問ご意見ございましたらよろしくお願いいたします。

○地曳委員

木更津市では、公民館活動ではなくて、木更津市全体を活動領域としました市民活動団体というものがおおよそ 100 団体ございます。

健康、福祉、スポーツ等々の事業に関して活動している団体ですが、そのような団体の居場所とか、備品類等の置き場所も含めた、交流の場として、新しい市民会館にそういった機能をぜひ

持たせていただきたいと考えております。

現在、駅前のビルを借用し、展開しておりますので、借用期間の終了とともに、その新しい市民会館の方に入れるとよろしいかなというふうに考えているところでございます。

あともう1点ですけれども、市内には、県立高校が二つ、私立高校が三つ、国立高専が一つ、また大学も一つございます。その学生さんたちの交流の場として、現在、駅前のビルが活用されておりますので、新しい市民会館に交流の場ができれば、日々の活気ある雰囲気が出て来くるのではないかなというふうに考えております。

○倉田委員長

ありがとうございます。

今、ある意味で利用者を想定した時に必要とされる機能ということでお話いただいたわけですが、ちなみに、市民活動団体から求められる機能としては、施設としてどんなものが考えられるのでしょうか。

ある程度集まったロッカーや、共同で使えるようなスペースのようなイメージでしょうか。

○地曳委員

やはり備品類の保管のためのロッカーというのは必要だと思いますし、会議室等の共用スペースなどでよろしいかと思います。市民活動団体専用の場所というのはなかなか難しいかと思いますので、貸し会議室を市民団体が予約できるような形の運用にしていただければと思います。

あとは、カフェなどのお茶などを飲みながら交流ができるような場所は、ぜひお願いしたいと思います。

○岩埜委員

16 ページに中規模ホールの記載がありますが、700 人程度というのが基本的なものなのでしょうか。

○事務局

16 ページの下の図は、基本構想をもとにした配置を書いているのですが、それにワークショップでいただいたご意見などを追記しているようなイメージでございます。

ホール部門は700 席というのが基本構想での数字になっております。

○古橋委員

今700 席という話が出ましたが、先ほど松井委員の方から話があった富士見市の場合は、実際平面的に見ると、実は演劇系のホールになっています。

建築的には、尼崎方式と言っている舞台と中通路が同じ高さという、どちらかという、演劇を意識した構成になっていて、なお且つ平面的にもここにあるのと同じ両袖が取れているということで、空間的には演劇を中心にした設計がされていると思います。

それに対して音響反射版を付けて、音楽もできると言ったときに、結局そこで矛盾ができるわけですが、音響性能に対して残響可変装置を設置しなかったために、どっちつかずになってしまったみたいな話になるわけです。

今は技術的にはいろんなことができる時代です。

但しやっぱりコストはかかります。

ですので、1000 席を700 席にしたから安くなるというのではなくて、700 席で質の高いものをちゃんと作っていくという方が多分この後に禍根を残さないといえますか、せつかく作るのであれば、そこで、変にちょっとバランスが崩れてしまうことによってすべてがうまくいかななくなるということだけは、考えながら進められるのがいいと思います。

○松井委員

毎回同じこと言い続けているようで恐縮なのですが、後半の施設の機能の説明ですと、交流スペースといえども、個別の施設・設備としての機能みたいな話になっていくと思います。

もちろん、今古橋委員からお話があったように、メインの方にこういうような機能を持たせなくてはならないなどの条件付というのを、本当に今やらなくてはならない重要な議論だとは思いますが、先ほど倉田委員長がおっしゃったように、個別の施設を全体で配置していく的に、そして

それが一つ交流というようなものを生み出していくってというような、そこら辺のハードの角度から見た機能というのは素晴らしいなと思ったのですが、具体的にどうすればそういうことが、可能になるのかっていうのはちょっとわからなかったんで、少しイメージするために、事例を与えていただければなというのが一つあります。

それと、地曳委員の方からのお話で、市民活動団体というのが100団体あるというお話でしたが、私はいろいろ言っているわりには公民館で行われている社会教育活動の実態っていうのをよく知らないんで、ちょっと誤解があるかもしれないのですが、公民館でも、自主事業というか、いろいろな講座をやっていますよね。劇場でもそういうものをやったりするのですが。

公民館も劇場と同じような貸館機能があり、スペースを市民に提供していると思いますが、例えば、この市民会館の個々の施設の機能っていうのを話していく時に、貸し館としていろいろなことを展開していく中で、通常、利用している市民はスペースを利用しているだけで、実際にはそこに交流は無いのではないのでしょうか。

ただ、委員長がお話になったように、その場の作り方によっては、あたかも接点ができるようなことはあるかもしれないですが、私は少し悲観的というか、それだけでしたら、今議論になっているようなオーガニックのまちづくりという考え方に基づいた市民の間の交流だとか文化的な資源の循環みたいなことは、なかなか生まれてこないのではないかと思います。

そうすると、今、施設の機能を検討している中で、貸し館として文化活動団体等に対して提供する話なのか、または市民会館の側がコーディネートして、その方々の活動をより発展させるために、或いは横の連携を作っていくようなことも含めて考え、事業として展開する話なのかということ、少し変わってくると思います。

今、個々の施設の機能が全体に有機的にどう機能するかという話の中で、今、そこに突っ込んでく段階ではないのですが、将来的にこの施設が一つの司令塔をもって、主催事業、実施事業活動を展開していく中でこの施設をどういう機能持たして使っていくかということと、貸し館で市民の人に使いやすくすることでは、少し違うレベルの話なのかなというふうに思ったので。現状では両方大事なのですが、この市民会館が、コーディネート機能を発揮して横につなげていくみたいな活動を前提にした時に、個々の機能或いは施設全体がどう上手く動いてくのかというのを少しわかりたいと思いました。

委員長にちょっと教えていただければと思うのですが。

○倉田委員長

私の方からお教えするとかということとはとてもできないのですが、一つはちょっと今議論を伺っていて、ホールの話と、施設全体の話というのが、かなりごっちゃになっているというか、今日の事務局の説明もちょっとそういうところがあったのですが、やはりホールそのものの性能といえますか、どういうホールにするのかという話と、施設全体を交流拠点としてどのように位置付けていくのかという辺りが少しごっちゃになっているような気がしています。

ホールについてはまず、先ほどお話があったように、いろいろな利用を想定して、いろいろな選択が考えられますが、中途半端になってはいけないと思います。

あとは、全体としてどういう作り方をするか。

私がこれまでいくつかの公共施設、特に複合的な公共施設の計画や、実際に設計段階まで少し関わってきた経験で言うと、従来は機能空間があって、それを廊下などの移動動線でつないでいくというような造り方が多かったのですが、最近は、どちらかというところの導線そのもの、廊下自体を造らず、いろいろなひとたまりもできるような、またある時には何か特別な活動ができるようなゆとりあるスペースにしています。そこはある意味自然な交流空間になっているわけです。

そして、創造施設が非常にオープンな造りであれば、それを開くと外部の交流空間と一体的に使えることとなり、非常に利用の自由度が広がってくるという作り方をしています。これはある意味で設計者の技量にもよるところがあると思いますが、最近、いろいろな施設を見ていると、そういう施設が非常に多くなってきているなというのは実感していますし、そういう施設は非常によく利用されていると思います。

私は大学の施設なども結構携わっておりますが、大学自体も、そういうふうに変ってきていま

して、いかにそのコモンスペースを大学の中に作っていくかというようになっています。

今までは、教室、研究室、演習室があり、あとはもう廊下があればいいというような感じだったものが、そういう形ではなくなってきました。

少し専門的にはなるのですが、建築でよくグロス、ネットという言い方をします。

非常に特化、限定された機能空間だけを取り出し、それをネットというわけですが、昔はグロスに対してネットの空間というのが、例えば7割くらいで、その他はトイレや廊下などだったのですが、今はそれが随分変わってきて、ネット以外の空間が、非常に大きくなっているという公共施設の傾向があります。

市庁舎などもそうくなってきている状況にあります。

それはやはり、利用するということを考えたときに、そういう施設づくりがより可変性あって利用しやすいということだと思います。

私はよく重ね使いというような言い方をするのですが、一つの場所をいろいろな使い方をしていくことで、よりその施設の利用頻度も高くなるし、また、同時に、それまで関わりのなかった人たちがそここの場を通して新しい関係を作るということも生まれます。

今はそういう施設づくりが必要とされているのかなと感じています。

○伊藤委員

今出ている大方の意見に大体賛成なのですが、ちょっと今日の説明聞いていて、やっぱり一番気になるのが16ページの図です。

広場が青と橙に分かれている、これは基本的な考え方なのですが、ホールはホールとして、やっぱりシンボルとしてきちんと残すという考え方をとるのか、それともホールも含めた一体として考えていくのかというのをはっきりさせておかないと、すぐくまずいのではないかなと思います。

12ページの参考に出ている実施事業と貸し館事業の図というのは、明らかにホールが前提になっていて、ホールではこういった考え方というのは、十分成り立ってくると思いますが、今委員長も言われたような、最近の文化施設、特に地域密着型の自治体等にある文化施設を考えていくと、ある面ホール自体が独立してない方がいいのではないかなと。そうなってくると、自主事業というのはホールの実施事業ではなくて、館の実施事業となります。

ホールの実施事業としては、素晴らしいコンサートや鑑賞事業も行えますが、より多くの市民がそこを使って交流していくための実施事業となると、もうこれはホールだけではできません。市民との協働になってくると思いますが、そういう形となれば、ここでいうバランス重視型は少し曖昧なところがあり、かなり全体のシェアを占めてくるような考え方をとらなくてはまずいだろうと思います。

ただ、あくまで市の顔としてのホールを考えるのであれば、橙な部分と青の部分に分けてホールに関して言えば、少しここは従来型の古いパターンですが、一つの顔になるようないいホールを作るという考え方もあると思いますので、ここは私が選択する立場ではないので、少しこの辺は今までの基本構想や教育計画、市民のワークショップなどで市民はどちら求めているのかお聞かせ願いたいなと思っています。

○宮崎委員

私は、ホールはホールとして造って欲しいと思っています。

そのホールが可動式になることは、舞台の上が揺れるような問題がなければ、それはそれで構わないとは思っています。

可動式にすればそれこそお正月にパーティーとか、ダンスパーティーとかそういうので使えるかもしれないです。

あとは舞台の大きさなのですが、せめて20メートルは欲しいと思います。奥は四角でいいのですが、最近東京の舞台を借りたのですが、意外と狭かったです。

○伊藤委員

先ほど触れましたふじみ野市の委員会の中でも、今、宮崎委員がおっしゃったように、ホールはやはりそういうふういきちっとしたものを造って欲しいという声が多くありました。

座長としては市民の声を立てましたが、考えると非常に中途半端なホールになってしまうので

はないかと恐れてはいます。

ホールらしいものを作るために、固定の 800 席という形になったわけなのですが、この決断の仕方というのは、やはり結構重要であると思います。

10年20年後に、失敗したということが起こらないようにして欲しいという意味でも、この辺は慎重にご判断願いたいと思っております。

○宮崎委員

今ある木更津の大ホールは、NHKの技師さんに音響を設計してもらったと聞いています。

なので、本当に演奏会やってもすごく音響が良くて聴きやすい、いい舞台でした。踊りの方でいうと、少し奥行きが狭くて辛かったのですが。

ですので、やはり、そういうことに関しては本当にプロの人に依頼をして、きちんとしたものを作って欲しいなと思います。

でなければ、結局ここで演奏会を行うとなっても、ここで聞いてもいい音出ないからとなり、若い人たちなどは東京に行ってしまう。

私は木更津音楽協会というところに少し関わっていたのですが、私達世代から上の方たちがいい演奏を聞きたいということで、その音楽協会を立ち上げ、いい演奏家を呼ぶためには会館がなければというので、市民会館ができて、最初の頃は 2000 人ぐらい会員がいたそうです。

今は、もう無く、最後は 100 人ぐらいの会員になってしまい、どうにもならなくて閉めたんですが、本当にいい演奏が、地元で聞けるっていうのがどれだけ大切なことで、意義あることだったのかなと思っています。だから、いい舞台を造って欲しいというふうに思っています。

そこにはお金をかけて欲しいと思います。

○渡部委員

今の話と関連しますが、木更津には自衛隊が陸海空とあって、結構音楽コンサートをやってます。

また高校の方も、定期演奏会等もありますから、そういった面ではやはりホールはきちんとしたものを作っていった方がいいと思います。

もう 1 点、都市整備部は、まちづくりの方の担当なのですが、やはり、今回作るホールは木更津を代表する建築物になって欲しいというのがあって、先ほど外観だっていう話もありましたけど、そこは用がないから来ないというのではなくて、その建築物自体を見に来るという考え方で、そういった人もぜひ来てもらうような建築物になって欲しいと思います。

また、中に入るカフェとかレストラン、先ほど青森の施設が参考としてありましたが、こういってちょっと面白みがあるというか、地元の人たちも使いやすい、また遊ぶスペースがあるなど、こういって少し遊び心があるような施設を上手く配置し、ホールもきちんとしたものを造りながら、先ほど倉田委員長がおっしゃったような、複合的なつくり方の建築物、代表的な建築になればいいなというふうに思います。

○岩埜委員

教育部なのですが、県警、自衛隊の音楽などを行っております。

また、有料ですが三井財団なども文化課で実施事業として、中ホールで行っています。

現在、自衛隊につきましては、350 席ぐらいしか客席が確保できないのですが、申し込みは約 500 席を超えております。

三井財団については、音響版を持ってきていただいているような状況で、できれば舞台については、いいものを造っていただきたいということは賛成です。

○倉田委員長

ホールの性能といいますか、そういう特に音響については、古橋委員のご専門かもしれないのですが、ただちょっと申し上げると、音響の性能にはかなり幅があって、おそらく皆さんがおっしゃっている性能というのは、最近造られているホールであればほとんどそれ以上のものが作られていると聞いていただいていると思います。

特に、先ほどご紹介したかなり多目的な利用を前提にしたホールも、例えばサントリーホールにも音響の専門家が入っていますし、最近はほとんどそういう専門家が入って、音響の方はやっていますので、そこはあんまり心配されなくてもいいかなと思います。

ただその中でも、海外から世界的クラスのクラシックの演奏家を呼んでここでやるかというような話になると、また全然、求められている性能のレベルが違ってきます。

そういう意味では、そこは、そんなに心配しなくてもいいと思います。

少なくとも、今議論しなくてはいけないのは、その上でどの程度まで音響性能を期待するかということになってくるかだと思います。

○古橋委員

ちょっと極端な話でいうと、例えばパイプオルガンとかですね、ああいうものはどうしても楽器の性能上長い残響が必要になります。

建物的に言うと、長いものを短くすることはできるのですが、短いものを長くすることは電気機器を使わない限りできません。

だから、最終的には、どういうものと言ったときに、そこで何をやるかということで、最適な残響を決めるのですが、そういう意味で言うと、今のようなパイプオルガンなどの非常に特殊なものでなければ、それほど心配をするほどのものではないと思います。

逆に言えば、もしそういうことであれば先ほどの残響板などで調節することは可能ですので。

微妙な話でいうと、残響可変でも、例えばお客さんがたくさん入ったときとガラガラな時では変わってしまうわけですから、それを実際にリハーサルの時と本番で変えているトッパンホールとかありますが、それは非常に高度な話で、そこまで行かないレベルであれば、ご心配することはないと思います。

○松井委員

少し議論が戻ってしまうのですが、今日の資料の4の2のところの描かれ方というのはとてもいいなというふうに思います。以前の第2回の会議で出た議事内容というのが適切にピックアップされていて、そこで出た話が、4の2の方にきちんと反映されております。

基本理念などは特にいじっているわけではないのですが、改めて木更津文化を継承、想像、振興するこのにぎわい、交流拠点という部分は、前回、委員長がいろいろな形で言うくださり、もうこの機能、施設はこういう基本機能を持つのですよというようなことは、一定のコンセンサスは得られているのかなと思います。

それが基本理念と導入機能ということで、図表により前回委員会の成果がきちんと反映されているのかなというふうに思いました。

ただ、ちょっと今、もう一つ思うとすれば、この画はとてもいいのですが、これ自体は基本的な役割と導入機能の関係性というよりは、基本理念そのものを画にしたもので、なにかパートに分割したものをどう繋ぎ合わせるかみたいなことになってしまっているように感じます。

それで、今皆さんが展開される議論というのは、そのあとの各論というか、実際にはどうしていくという話になってくるかと思うのですが。

伊藤委員と宮崎委員がお話になった、では、そのホール部分に関してどういう役割を定義するかというあたりの話は、確かに、伊藤委員のおっしゃる通り、これは市民の側が見定めるべきことで、そのことの対応としては、委員長をはじめ、古橋委員もおっしゃったように、仮に可変的な客席なんかを導入するにしても、ホールを独立して、このメインの施設として、機能させるというのは条件を満たすことができるという話だと思います。

だからそれも、ある程度の道筋が見えてきたかなというふうに感じました。

今日、最初の方で紹介させていただいたキラリふじみの話なのですが、確かに、メインホールの方は、クラシック音楽に一番いい条件で造られているというのが現実としてはあるのですが、先ほど言いましたように、クラシック専用みたいなホールのありようを、もう少し演劇、サーカスなどの多様な舞台芸術に対応するような、私流の言い方をすると劇場ということに変更するというところを行い、何とかそれは可能になっております。

一方で、皆さんに見ていただいたマルチホールの前の空間と、その外側の機能をつなぐというような形で、ガラス戸を開けるというのも、かなりダイナミックな使い方、あの機能を生かしたというのは、僕が仕事始めてからサーカスバザールを行ったりしたことが初めてでした。

パーフェクトなハードというのはやっぱりなく、キラリふじみのメインホールも、先ほど古橋委

員がおっしゃったように、確かにある演劇に適合するように作ったのですが、結果とすれば、クラシック音楽にとってベストなものになっています。

それを少し違った使い方をしようとする、かなりプロフェッショナルな技が必要で、お金も若干必要になったりします。

どんな施設でも、一つの方向づけをする限りは、多目的といっても、そのメインの方向以外のやり方をして、活発にいろいろなことをやろうとすると、人的な力と、経済的なものがやっぱり発生してきます。

なので、これは今後の運営体制の話の中に絡んでくると思います。

マルチホールの前を開放したというのも、ホール自体はすばらしい機能なのですが、外でパフォーマンスをやるような設備などは一切設けられていません。

そこまでお金がないし、そんなものを備えた施設を造るとしたら、莫大な予算が必要になってしまいます。また、仮にその設備があっても、それを展開するときには、ものすごくプロフェッショナルな技と、やはりお金が必要になってくるということがあります。

なので、どういう機能をメインに進めるにしても、そのあとその素晴らしい充実した機能を100%生かすという管理運営体制を作るといような一定の方針、計画の担保が、やはり必要になってくると思います。

専門的な見識のある人が入ることも考慮すべきとか、ここでそういう議論まで全部完結することができないかもしれないですが、今現在この委員会に参加して、いろんな意見を述べているという立場としては、一番いい機能とプランを作りましょうということやっていこうと思います。

なので、前提として、こういうようなことも、この計画の中では保障されるというふうに考えていいわけですね。

○倉田委員長

ありがとうございます。

何か松井委員にまとめていただいたという感じがしますが、今、松井委員の方からお話あったような方向ということで、私も皆さんのお話伺っていて、基本的にはいいのではないかとこのように思っております。

ただ先ほどの話で、やはりメインホールを多目的とはいえ、結構いろいろ幅があるわけで、私もホールの専門家ではないのですが、例えば音楽にウエイトを置いたホールにするのか、もう少し演劇よりなのかというだけでもちょっと違ってきます。

今日も少し事例として紹介された私に関わったところも、小さなホールですが、ぜひ、演劇もやりたいということで、そうすると今度は、いわゆる上からの吊りものをいっぱい下ろすような道具等が必要になり、それを付けるか付けないかというのは結構大きな問題であり、演劇をちゃんとやろうとすると、そういう意味でも、違ってきます。

その時には、完璧なフライではなくても、このくらいである程度の演劇ができるでしょということになり、いろいろ技術的な検討していただいて最終的には、やはり音楽がメインという形になりました。

それから、もちろん反響板についても、少しそれを稼動なものにしたりなどの技術的な工夫はできるようですので、どこかで少しそこは詰めない、このメインのホールの仕様も決まってるのではないかとこのように思います。

また、客席の稼動ということについても、また少しどこかで詰めないといけないと思います。

本日は、もう少し大きな枠のところを議論するのが目的だと思いますので、それは、具体的な設計に入る回ぐらいには、その辺の方向も決めてかなければならないのではと思っております。

それから、やはり、そこを決めるのは利用者である市民の皆さんの意向というのが一番大きいかないというふうに、私自身のこれまでの経験で思いますので、そういう意味では、今日のところは、少しそういったこれからの議論の課題を含めて、先ほど松井委員がまとめていただいたようなことでよろしいのではないかなというふうに思っております。

○地曳委員

松井委員に質問なのですが、800席の会場ということで、実際の興行で有料のチケットを販売し

てというような形での利用というのは、年間どれくらいのペースで行われているのでしょうか。貸館としてですが。

○松井委員

実質はほとんどない感じです。

実際に多いのは、興行というよりは踊りなどで、今はバレエというよりは、ヒップホップやジャズダンスなどのお母さんから子供までというような利用が一番多いです。

また、綾小路きみまろの講演などを埼玉県のプロモーターが呼んできてやったり、落語をやるなどが多いです。

でも一番多いのは、あまり知らないような演歌歌手を連れてきてのカラオケ大会などです。

ですので、入場料は無料と思います。

○倉田委員長

同じ 800 席くらいの茅野市民館、私自身は直接運営には係ってないのですが、いろいろプログラム送ってもらっているの、どんな利用をしているのかというのは少し気になって見ているのですが、やはり貸し館と言っても、プロが来て大規模のものは難しいようです。たまたまずぐ近くにもう少し大きなホールがあるということも理由なのですが。

それでもその中に幾つか、年間に、それなりにちゃんとしたプロの方を呼んで、小規模ですが、音楽、歌舞伎などを行っています。

それも一部は、自主事業などで、市民が作った組織が出演交渉をして、年間に何本かやっているというようなケースもあるように思います。

しかし、平日は意外と閑散としています。練習に使ったりはしていますが。

○地曳委員

主催者側が利益を得るような形での事業というのは、700 席ということでは、難しいかとは思いますが、出演料等を団体が支出をし、いい演劇やいい音楽を呼んでくるということで木更津のメインホールを活用していくというのは可能ではないかなと思います。

以上です。

○伊藤委員

この話はまた別のところでやったほうがいいと思うのですが、何日か前の朝日新聞に武蔵野文化会館の話が記事になっており、多分 20 年ぐらい前から、1 市のホールですが、都心でやっているものと同じクオリティを半額でやるというコンセプトで事業をやった方がいました。

それをやるだけの熱意があった人がいたからでしょうが、恐らく武蔵野と東京の関係を考えると、木更津でも十分にできると思います。

しかし、本当に大変な努力が必要です。そこは本当に気持ち一つというか、パッションの問題だと思います。

○倉田委員長

先ほど申し上げなかったのですが、例えばすごくハイスペックないいホールをつくったとすれば、当然それを使う側のいわゆる専門家が、やはりホールにも必要になってくると思います。

大体そういうホールは、市の職員が片手間にやるっていうようなものではなくて、ちゃんとしたプロが入って、そういう施設の運営を行っております。

○古橋委員

これも多分、今後の議論だと思いますが、一つお聞きしておきたいのは、例えば神奈川県湘南地域あたりのホールですと、主催と貸し館ではない、市民企画といいますか、市民の中でプロジェクトコードを持っている人が結構多くいて、それを館が会場費を減免するとか、様々な形で応援するというスタイルで、制作費自体は、市民がボランティアでリスクを負ってやっています。

このような形の共催型が幾つか増えてきているのですが、そのためには、市内でそういう自主事業を行えるような市民、或いは小さな事業者など、お金もうけをするような会社は絶対無理だと思いますが、そういうアートが好きだから、音楽が好きだから、演劇が好きだからということでやっていくような団体がどれぐらい基盤としてあるのかどうか、今後のために、またわかれば教えていただきたいと思います。

○倉田委員長

運営方法などについては、これから少しまた議論しなさいければいけないことではないかと思いますが、今日の議題の中身については、ある程度のご意見をいただけたのではないかと思いますので、本日の議事は、これで終了いたします。

これをもって議長の任を解かせていただきたいと思います。

皆様、長時間のご検討ありがとうございました。

○事務局

最後になりますが、その他といたしまして、次回の委員会のご案内をさせていただきます。

次回の第4回検討委員会は、第1回目に配布させていただきましたスケジュール表のとおり、10月9日水曜日、14時から開催させていただきたいと思っております。

案内状はまた後日送付させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

次回委員会では、現在、他の部署で検討しております建設場所などについて、皆様方にお示しさせていただく予定でありますので、よろしくお願いいたします。

では他に何かご質問等ございますか。

ないようでしたら、以上をもちまして第3回木更津市市民会館整備検討委員会を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。

上記会議録を証するため下記署名する。

令和元年10月 9日

木更津市市民会館整備検討委員会委員長 倉田 直道